

指定諮問書

史跡

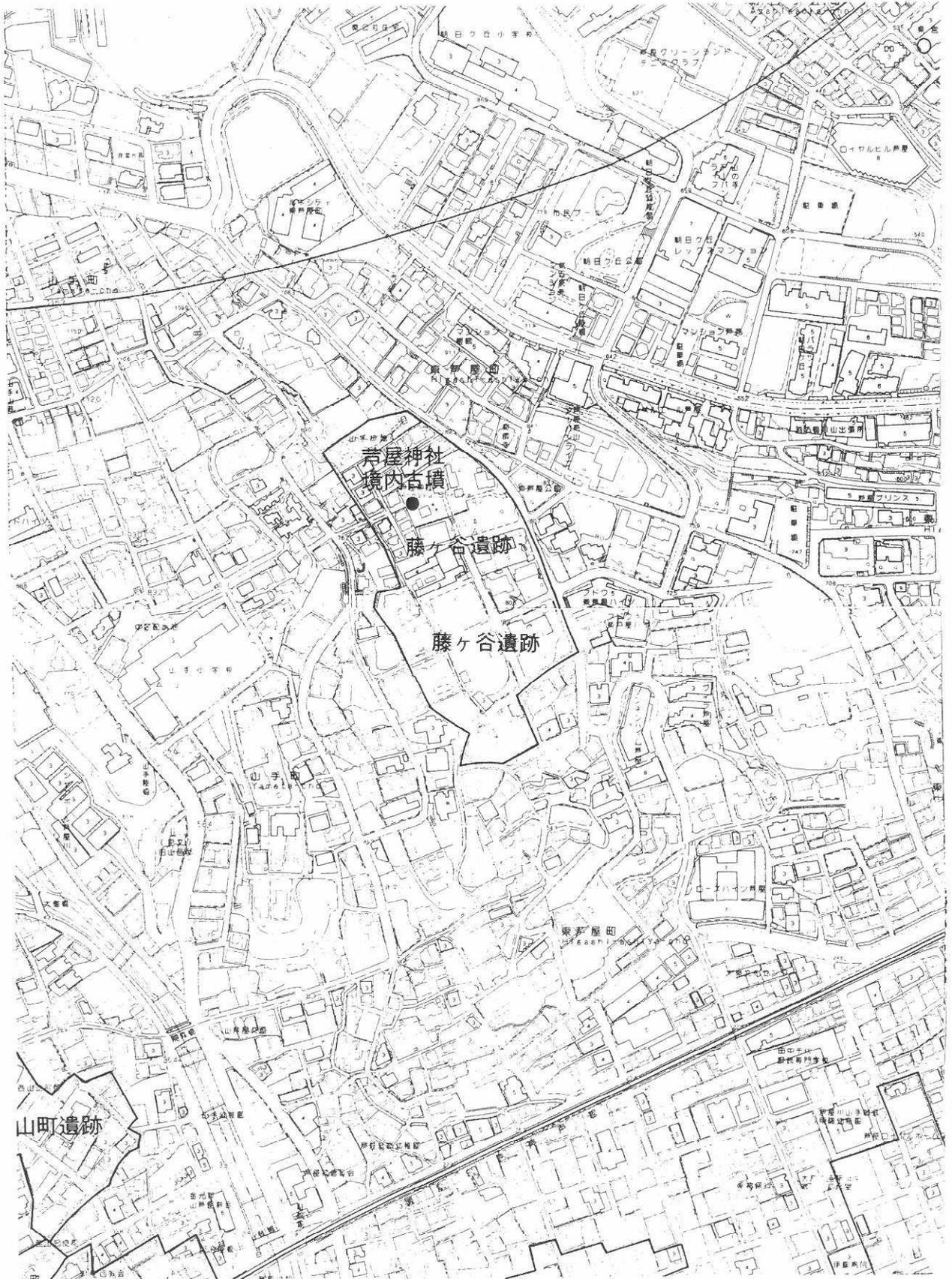
芦屋神社境内古墳

芦屋神社境内古墳は、東芦屋町に所在する芦屋神社の境内にある横穴式石室墳で、標高 8.5 m を測る六甲山地の山麓台地上に立地する。古墳時代後期（6 世紀末～7 世紀初頭）に築造されたと推定される。現在は単独で存在しているが、本来は群集墳である天神山古墳群を構成する 1 基であると考えられる。市内の横穴式石室墳において、本墳以外に玄室部及び天井石材が完存するものはなく、墳丘も最も良好に遺存している。

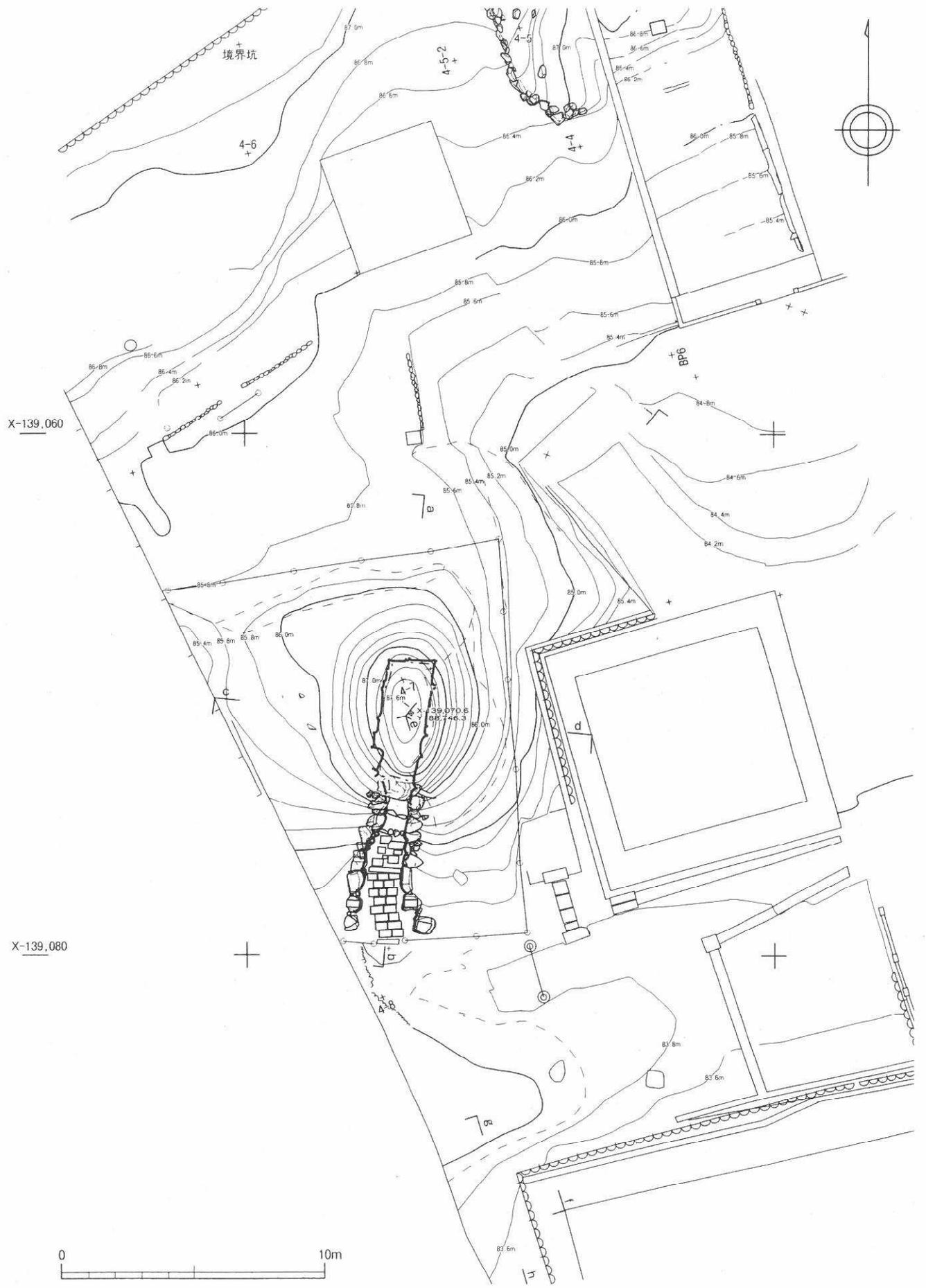
墳丘の形態は円墳で、その規模は径 19.0 m、高さ 3.5 m である。周溝を含めた墳域は 24.5 m である。

埋葬施設である横穴式石室は、右片袖式である。その規模は、現状で全長が 10.4 m、玄室が長さ 3.6 m、幅 1.7 m、高さ 2.1 m、羨道は多少の改変があり、長さ 6.8 m、北端の幅 1.2 m、南端の幅 2.0 m である。

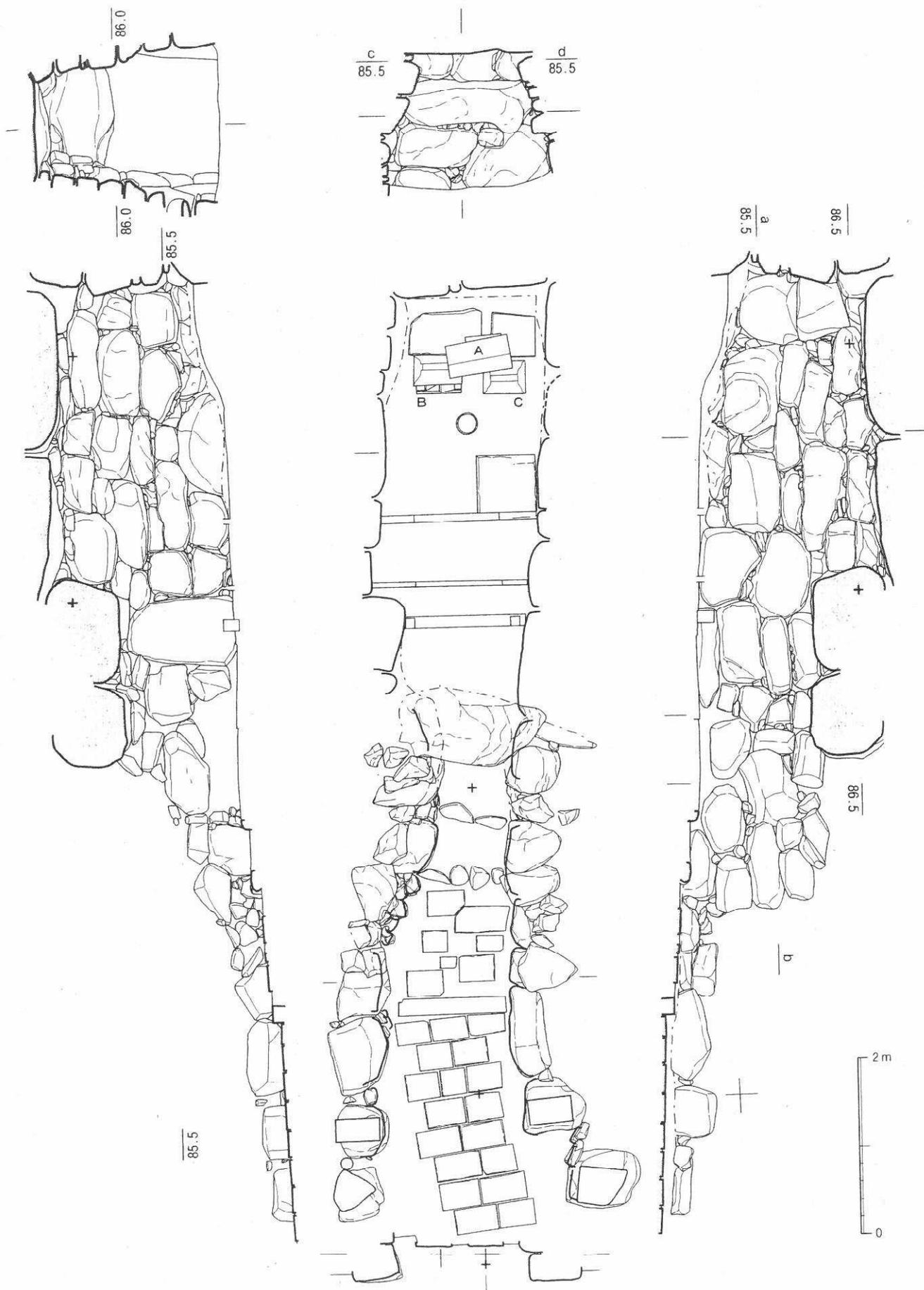
以上のように、本墳は古墳時代後期（6 世紀末～7 世紀初頭）に築造されたと推定される市内で最も遺存状態の良い横穴式石室墳として、本市の古墳を理解する上で学術的に重要な文化財としての価値を有するものである。



古墳位置図 1/5000



墳丘測量図 1/200



石室実測図 1/60



芦屋神社境内古墳全景



芦屋神社境内古墳石室内